



## 中津国の大神となる

須佐之男命は、試練に耐える大  
国主命をだんだん頼もしく思うよ  
うになっていました。

ある夜、大国主命は、須佐之男  
命が眠っている隙に、須勢理毘売  
と共に、生太刀・生弓矢・天の詔  
琴を携えて逃げ出そうとしました。  
須佐之男命の髪を天井の垂木にし  
っかり結わえて入口を大きな石で  
塞いで逃げました。ところが、琴  
が木に当たって鳴ってしまったの  
で、須佐之男命は目を覚まし、室  
屋を引き倒しながら追って来るで  
はありませんか！

根の国とこの世との境―黄泉比  
良坂―まで追いかけてきた須佐之  
男命が、もはやそこまでと、大国  
主命に大声で呼びかけました。

「その生太刀・生弓矢を使って、  
兄弟神たちを山や川、大地の果て  
へと追いやり、お前こそが中津国  
の大国主神、また宇都志国玉神と  
名乗りなさい！そして娘を妻と  
して幸せにしてください！」

「おーい 頼んだぞー！」  
こうして、須佐之男命の言葉を  
受けた大国主命は、出雲に帰り、  
国造りに励んだのでした。

\*生太刀・生弓矢・天の詔琴  
生太刀・生弓矢は地上を治める力を表し、天の詔琴  
は祭りを司どる力を表す。大国主命は、この三品を  
得て中津国を治める力を得たのである。